



# ArteKodomotoKi

## 2021. えんだより

社会福祉法人 種の会 アルテ子どもと木幼稚園

〒164-0001 中野区中野1-59-5

Tel 03-3365-0602

ホームページ URL <http://www.tanenokai.jp/>

## お知らせ

- この度、片山雄基が理事長になりました。  
片山喜章は法人全体の研修研究に専念することになりました。  
最終ページに#ユナタン（ヨッピーからのメッセージ）を掲載しています。
- 給食の予約数管理のため、夏休みの予定（7月～9月）が決まりましたら担任にお知らせください。職員も交代でお休みをとりますのでご協力をお願い致します。
- 水遊び・プール遊びが始まります。各クラスで掲示しているお知らせをよく読んで忘れ物のないようにお願い致します。

- 祝日の変更に伴い、誕生会の日が変更になっています。  
23日（金）→30日（金）  
7月22日（木） 海の日 → 祝日  
7月23日（金） スポーツの日 → 祝日

July 7 2021						
sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
				1 運動あそび	2	3
4	5	6 音楽あそび	7 七夕 発育測定	8 運動あそび	9	10
11	12 プール開き	13 音楽あそび	14	15	16	17
18	19	20 音楽あそび	21	22 海の日	23 スポーツの日	24
25	26	27 音楽あそび	28 避難訓練	29	30 誕生会	31

※プール開き以降は木曜日の運動あそびがプール/水あそびとなります。

## きっと明日はいい天気

園長 山田寿江



屋上の植栽が雨に濡れて気持ち良さそうです。緑の中に次々といろいろな花が開き、彩りを添えています。小さなぶどうの粒達は、膨らんで豊かな実になるのが楽しみです。2階の畑では、赤ちゃんスイカが誕生！どれくらい大きくなるのかワクワクします。果実にとっては、ジョーロの水も含めて恵みの雨です。

今にも降り出しそうなどんよりした空や雨は、何となく気持ちも塞ぎがちですが、子ども達にとってはどうでしょうか。お気に入りの傘やピカピカの長靴に、とびきりの笑顔で登園してくる姿もあります。一人前に傘をさして歩くことが嬉しくて、長靴でぴちゃぴちゃする水たまりにも気分がウキウキして、何だか楽しい日なのかもしれません。

蒸し暑くなりマスクの煩わしさも一層強くなります。暑い夏は、冷たい水や氷のヒンヤリが心地よく感じるシーズン。気候変動は世界規模で様々な変化をもたらしていますが、季節は自然界と上手くつきあうことの大切さを教えてくれます。四季のある他の国と比べても日本文化において四季は特別なものです。梅雨もまた毎年訪れる季節のひとつとして、楽しい過ごし方を見つければいいですね。

ネガティブに思えることも、見方が変わるとポジティブな視点として捉えることができます。目の前の事象は、気持ちで変えることはできませんが、今をどう受け止めるかで次へつながるプロセスとなったりもします。明日が、それぞれにとっていい天気となりますように。

### 『にじ』のうた

誕生会で主役の子ども達が披露してくれたのは、それぞれの得意技と【虹】の絵です。青空に描く色鮮やかな虹のパフォーマンスが、会場のみんなを巻き込んで楽しい空気に包まれました。

雲が ながれて 光が さして  
みあげてみれば  
ラララ にじが にじが 空にかかる  
きみの きみの 気分もはれて  
きっと明日は いい天気  
きっと明日は いい天気

『にじ』(作詞:新沢としひこ 作曲:中川ひろたか)の一節です。



ワクチン接種が進んでいますが、感染が拡大しないことを願うばかり…。新しい生活様式は、どこまで続くのでしょうか。表情の見える会話や心置きなく人と食事できる日が待ち遠しいです。その日まで、今できることを探りながら、新たな生活の潤いをみつけていきたいですね。

事務所前に匂の花を飾っていますが、5歳ナノ組の男子からLaQの作品をコラボしたいと申し出がありました。なんて素敵なことでしょう。昨年度の5歳児達がLaQを作って飾るのを間近で見てきた子ども達です。憧れの心から観察し、模倣して自分のものになっていく。シャクヤクが飾られたお皿に首を突っ込んで水を飲む恐竜達。頑張って作った作品をたくさんの人見てもらいたいという気持ちから、作品がどんどん増えています。



展示された恐竜のLaQやお花はとても魅力的です。小さな子ども達が触ってみたいと思うのは正直な心です。触るとLaQはもろく崩れます。お花も強くつかめばグシャグシャになります。

触られたくないなら片付ければ良いのです。ですがそれでは子どもは育ちません。怒られるから触らないのではなく、お友達が作った大切な物だから、見つめるだけにする。お花は生きているから、優しく触れようとする気持ちを育てたいのです。丁寧に繰り返し伝えていくことで、まだ言葉を話さない子どもにも伝わります。散歩の時に近隣の庭に咲く花を「きれいだね」と話しながら歩き、季節の変化を感じる。小さな頃からの生き物や物に対して、あたたかい気持ちを持つこと、自分や友達が作った作品を大切に思う心が育まれて欲しいと願っています。

壊れたLaQは5歳児さんが快く直しています。それは、この子ども達が卒園した5歳児にしてもらった行為と同じだからです。うっかり壊してしまった時、卒園児たちも厳しく怒ることはありませんでした。むしろ「任せといて」と素早く直してくれました。その優しい対応は後輩に受け継がれていることが嬉しくなりません。

今月の表紙は 2階の畑で採れたキュウリの観察画と孵化したアゲハ蝶の絵です。登園すると部屋の中をアゲハ蝶が飛び回っていて、子ども達は大興奮でした。今も新しい青虫を飼育中です。

主任 黒木



最近よく目にするのは何か見つけると手で摘まんだり、両手で持ってみたり、揺らしてみたりする子どもたちの姿です。反射的に握る赤ちゃんのころから、さらに意識して片手で握る・放すという段階を経て、今では手先を使ってより細かく一つ一つの存在を確かめているように見えます。

ある日、バギーに乗って園庭を散歩していると、Cちゃんが手を伸ばすような仕草をしていることに気付きました。視線の先には風で揺れる緑の葉があります。バギーを近づけるとしばらく葉を注視するCちゃん。一度、保育者に顔を向けたのでゆっくりうなずくと、そっと手を伸ばして葉を摘みました。Cちゃんはしばらく触って満足すると再び周りを眺めていました。またある日には、クラスのAちゃんが固い枯れ葉を持っていることに気が付いたCちゃんは同じものに関心を持ちました。自分の手元にも枯れ葉がくると、表面がツルツルしてよく乾いた葉の感触を念入りに確かめていました。

自分の身体の感覚や一つ一つの動きを得ていくために子ども達の世界も広がっているようです。

どんな風に感じているのか一緒にやってみると楽しいかもしれません。



周りの存在に気付きはじめた子ども達。この日はMくんがおままごとの玩具を食べているとNちゃんがそれに気付きました。遠くにいたのにどんどん近づいて行って、いよいよ手を伸ばしておいしそうなそれに触ろうという時、Mくんは何が起こっているのか動きを止めてNちゃんの顔を眺めしていました。Nちゃんも手を伸ばしたまま動きがストップ。なんとなくこのままだと取られてしまうのではないかと察知したのか、Mくんがぐるりと回転して背を向けると、Nちゃんは回り込んでMくんの顔と口元を交互に見ていました。最後にはMくんは斜め上を向いてやり過ごすことにしたようです。

食べ物への興味ももちろんですが、お友だちにも意識が向いてきているようです。自分で動けるからこそ出来事が多くなってきました。



子ども達の動きが活発になり新たな存在への気付きの機会が増えています。周りの友だちへの様々な働きかけもこれから増えることが予想されます。温かいまなざしで子どもの成長を見守っていきたいです。

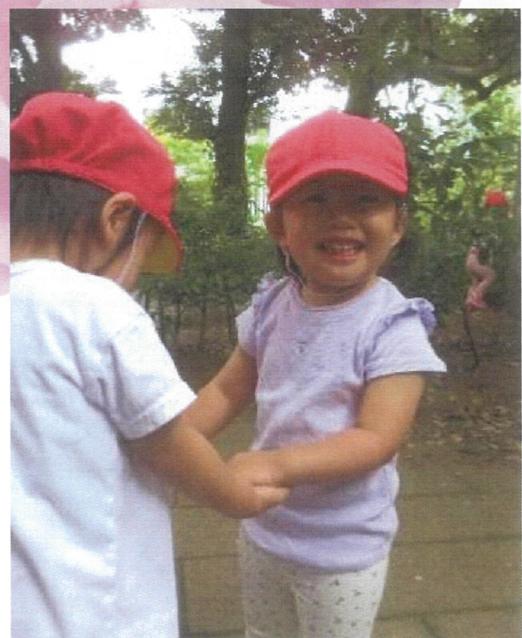
## ノンバーバルコミュニケーション

「せんせ、やって」「ママいた！」「ぽっぽさん、こんちは」子ども達は日に日に言葉が増え、とにかくお話しが楽しくて仕方ない様子。でも、まだまだ言葉にならない想いをたくさん秘めている子ども達は、表情・声色・ふれ合い…様々な方法で友達や保育者とコミュニケーションをとっています。

少し早めにお昼寝から目覚めたKちゃんとSちゃん。お隣同士の2人はごろんとしたままお互いをこちょこちょしたりつっつき合ったり。友達はまだ寝ているから、目を合わせてクスクスと声をひそめ笑う2人はなんだかとっても楽しそう。Kちゃんは高月齢で言葉も多いですが、何かを伝えるかのように保育者の目をじーっと見つめることができます。保育者が頷いてみるとKちゃんも笑顔で“うんうん”と頷いてくれます。何かが通じ合った感じがして、なんだか満たされた気持ちになりました。

YちゃんはFちゃんが大好きです。登園後にさみしくなって泣いていたYちゃんの向かいに座り、顔を覗き込んで頭を撫でていました。優しく触れるその手つきはまるで“大丈夫だよ”と言っているようでした。今では仲良しのふたり。公園では隣合って座り、拾った葉っぱを見せ合う仲なのですよ。

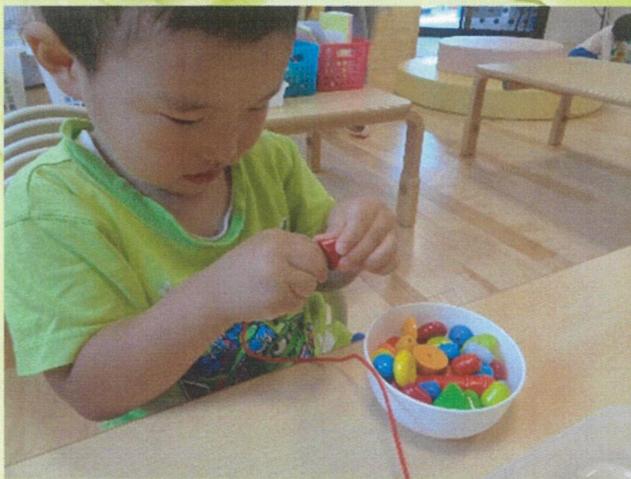
友達への関心が大きくなり関わることが増え、言葉は交わさずとも想いが通じ合っている子ども同士の姿を見て、子どもは色々なことを感じ取る力があることを実感しました。



保育者と子どもの関係も同様です。悲しいときや不安なときは保育者の膝に座って温もりを感じたり手を繋いだりして安心する子もいます。試し行動が始まり、いけないことと分かっていてもわざとテーブルに乗ろうとして保育者の顔色をうかがってくる子も。保育者が“やらないでね”の意を込めた表情を向けると思いとどまってくれることもしばしば。目線だけでも子どもは分かっているのですね。

幼児になると想いを伝え合うことが当たり前になります。だからこそ今、言葉以外のコミュニケーションで友達や保育者を感じ、関わり合う経験をたくさんしてほしいです。そんな子どもの姿や気付きに寄り添える保育者でありたいと感じました。

# pico 2



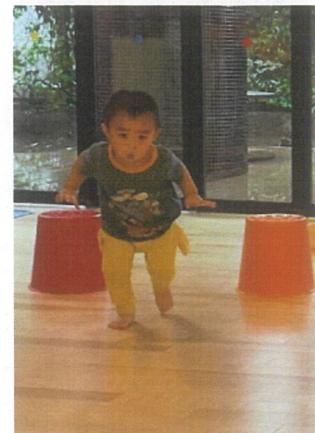
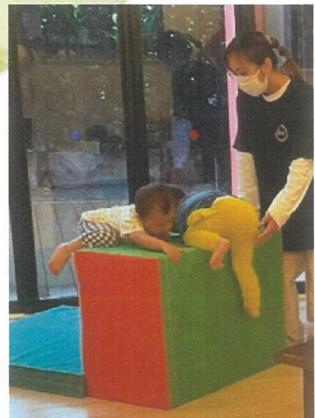
## ～自分で出来るよ～

手先が器用になってきた事で、パズルや紐通し、ボタンはめなど、手先を使った遊びをする事が増えています。自分で完成させると達成感が出て「もう1回！」と、繰り返し挑戦します。以前は「出来ない、先生やって！」だったのが、「自分で！」「先生見ててね」と言いながら遊んでいます。出来た事をたくさん褒めて、意欲に繋げ、再び新しい事にチャレンジ出来たらいいなと思います。紐通しも、あっと言う間に一人で通していき「こんなに出来た！」と、得意気です。紐を穴の中に通した後に、穴から少し出てきた紐を引っ張る所が難しいようで、はじめは苦戦していました。コツを掴むとどんどん通せるように！体全体を使った遊びと同様に指先を使った遊びからも成長を感じています。

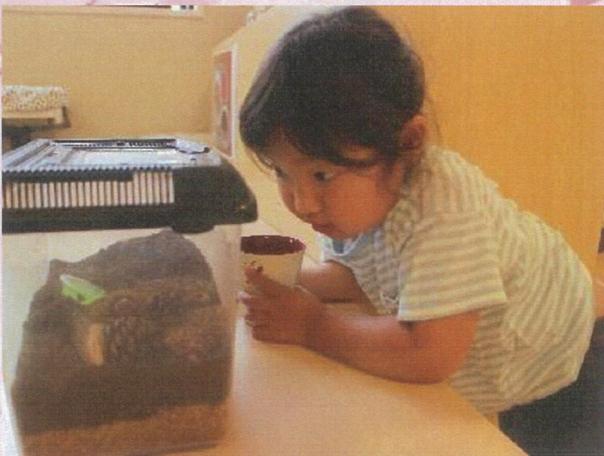
## ～サーキット～

ピコ組になり3か月、昨年度まで1階でおこなっていたサーキットは2階のホールへ。「ナノ組さんと一緒にやよ～」と伝えると、子ども達は目をキラキラさせていたのを覚えています。最初は、サーキットの大きさに戸惑う子ども達。サーキットの曲が流れるごとに、一斉にスタートです！が。。。回ることがわからなくなってしまった子ども達が、あっちに行ったり　こっちに行ったり。。。傍についている先生たちも、「次はこっちに行こうね」「ここは〇〇するんだよ」と、常に声を掛けていました。この3か月での積み重ねが、とても大きな力になっているようで、今では、子ども達の“やってみたい！”が、とても伝わってきます！なので、サーキットがある日は（1階ホールのサーキット含む）、子ども達も楽しみなようです。今では、ほとんどの子が周囲理解をし、他の友達の動きを見る余裕も出てきました。「〇〇くん、お芋ゴロゴロやってないよ」「〇〇ちゃん、反対からはダメだよね」「〇〇ちゃん一緒に行こう」など、誰かと関わる姿、誰かの動きの真似をする姿も出てきました。

A君の後ろにピッタリとS君がくっついて進んでいました。A君の動作を全部S君が真似をしていました。ハシゴの進み方、お芋ゴロゴロ、時にはショートカットをしたり。。。きっと、そこには、同じ動きをやってみたいと思うS君の気持ちがあったのかな？と、思います。サーキットをする事で、子ども達の色々な“やってみたい”が更に膨らみ、友達と関わりながら成長していくことを期待しています。



# nano 3



## 「かくれんぼしてる」

3歳ナノ組のお部屋にはカブトムシがいます。毎日カブトムシにあいさつをして、ごはんをあげて…「動いてるよ！ごはん食べたかな！」とクラスメイトになったかのように子ども達の生活の中で身近な存在になっています。

ある日、Aさんはカブトムシの本を読んでいる時に『カブトムシは寝る時に土の中に入る』ということを学びました。しばらくしてカブトムシの様子を見に行き「あ！土の中に入ってる！」と。「本当だ！じゃあ今は寝ているんだね～」と一緒に観察していると、それに興味を持ったBくんがやってきました。「Bくん、カブトムシさん土の中に入ってるんだよ！」とAさんは自信満々で自分の気付きを伝えました。Bくんから返って来た返事は「カブトムシさん、かくれんぼへたくそだね～！だって角が見えちゃってるよ！」Aさんは少しひっくりしていましたが、「本当だね！このカブトムシさんへたくそなんだね～」「もういいかい！？」「まだかくれられてないね～」と2人でニッコリ。

虫に興味を持ち始め少しづつお世話も出来るようになってきた3歳ナノ組さん。お兄さんお姉さんになってきたところもありますが、現実とはちょっと違う世界で楽しむ姿もたくさんありますね。

## 「ハトさん！あぶないよ！」

晴れた日に公園に行き、遊具や木の実集めなどそれぞれが好きな遊びを見つけて楽しんでいました。そこで汽車に興味を持った子ども達。「大きいね～かっこいい！」「せきたん動くんだよ」と、覚えた難しい知識も伝え合って楽しんでいました。その時「危ないよ！降りてーーー！」と大きな声が聞こえてきます。なにかあったのかと駆け付けると、子ども達がハトに声をかけていました。そしてそのハトが止まっていたのは、蒸気が出る部分でした。心配そうな子ども達に「この汽車は今お休みしてるから、ハトさん大丈夫だよ。」と声をかけると納得して安心してまた遊び出しました。

色々なことをしていくと今までとは違う視点で観察が出来るようになってきました。子ども達の成長に合わせて色々なものに気付き、寄り添って一緒に感じていきたいです。



## ナノ組合唱団♪

# nano 4 nano 5

おやつ後にホールで集まり、全員が揃うまで絵本や紙芝居を観たり歌をうたったりしています。『手のひらを太陽に』を始めて歌った日に「知ってる！」「前の保育園で歌っていたよ。」とMさんとTくんが大きな声で歌ってくれました。2人の歌声を聴いていた子どもたちも歌い始め、だんだん歌声が大きくなっていました。4歳ナノ組が前列、5歳ナノ組が後列に並んで歌っています。後ろから優しい歌声が聞こえてくることで4歳ナノ組の子ども達はそっと背中を押してもらっているようです。『かえるのうた』の輪唱にチャレンジしたこともありました。ふたてに分かれて歌ってみると、なんと、初チャレンジで成功！何が起こったのかとキヨトンとしている子ども達に、保育者は大喜びで拍手をしていました。

歌詞が長くて覚えるのが大変な曲もありますが、絵を見たり、歌詞の意味を考えたりすることで最後まで歌えるようになってきました。4歳ナノ組と5歳ナノ組の歌声は聴いている人の気持ちを明るくするパワーがあります。レパートリーが増えていくのも楽しみです。



## 花と木の実



花が枯れる前に押し花やドライフラワーにしています。押し花を使って自由なレイアウトでシール作りをしました。花のシール作りに魅力を感じた子ども達が集まり、材料がなくなるまで続いていました。ドライフラワーを片付け始めた頃に、5歳ナノ組のRくんが木の実の入った容器を持ってきました。昨年から拾い集めてきたスズカケノキの実です。Rくんは紙にスズカケノキを描くと、木の実を貼りたいと保育者に提案してきました。Rくんがボンドで木の実を貼っていると、4歳ナノ組のKさんが自分もやりたいと木の絵を描き始めます。またまた仲間が増えて楽しそうに木の実を貼っていました。子ども達が帰ると“明日もやるよ”と言わんばかりに作品が並んでいました。捨てずにとておいた自然物が子ども達の手によって素敵な作品に生まれ変わっています。後日、木の実を使った制作のリクエストがありましたが、残念…。木の実を使い果たしていました。城山公園のスズカケノキから木の実が落ちてくる日を待っています！



「(私にとっての)創造性とは、ものごとに『飽きる力』である。」

谷川俊太郎 <詩人・翻訳家・絵本作家 1931年~>

# Atelier

「かみの おたすけばこ」

ついさっきまで一生懸命描いていた絵、あいうえお表とにらめっこしながら書いていた言葉、保育者と並んで一緒に作っていた折り紙。ところが、わずかの間その場を離れて戻ると、それらが机に置き忘れられ、作者である子ども達は新しい制作に夢中になっていることがよくあります。



毎日毎日子ども達は、何かを描き何かを塗りつぶし、何かを組立て何かをこわし、何かを貼りつけ何かをはがし、創造と解体をひたすら繰り返しています。



机の上にあるならまだしも、床に落ちていたり拳げ句の果てにはゴミ箱に…ということも少なくありません。大人はその様子を見て、ある時は胸を痛め、またある時はその潔さにあっけにとられます。

そんな時私は、その宝物を拾い上げて作者に手渡したり、その子のロッカーにそっと置いたりしていました。しかしそうしながらも、心の中は複雑な思いでいっぱいでした。

その時出会ったのが、上記の谷川俊太郎氏の言葉でした。

「創造性とは『飽きる力』である。」、飽きる力……

それ以来、私は対応を変えました。拾った宝物には心の中で「素敵な作品だったね」と声をかけ、折り紙はできる限り破らないように元の正方形に戻し、糊やセロハンテープを丁寧に剥がし『かみのおたすけばこ（紙のお助け箱）』と名付けたボックスに仕分けて入れるようにしました。

しばらくすると、子ども達は思い通りに折ることができなかったりハサミで切って残ったりした折り紙を『おたすけばこ』に入れられるようになりました。そしていつからか、新しい折り紙だけでなく『おたすけばこ』の中の紙もせっせと使うようになりました。一日に使える折り紙の枚数は限られているので、それ以上に使いたい時は『おたすけばこ』の中の紙を使うのです。

ある日私の前に1さんがニッコリと笑いながらチョコンと座り、とってもカラフルで美味しいそうな三段重ねのソフトクリームを差し出しこう言いました。「これ、『おたすけばこ』だけで作ったよ」

様々な感性の子ども達がいます。『捨てる神あれば拾う神あり』いや『捨てる紙あれば拾う紙あり』でしょうか。

子ども達の創造性は、どこに宿るのでしょうか。できあがった作品に?それとも、作品を生み出した子ども達の中に?

毎日子ども達と活動を重ねていると、まるで試されるように様々な難題をプレゼントされます。そう言えば、昨今私達大人の中にも『断捨離的思考』が広がりつつありますし、ひょっとするとこの意識は国連参加193か国が掲げた『SDGs』にも関わるかもしれないを考えるのは少し大袈裟でしょうか。

(文責:一然)





日に日に日ざしが強くなり、暑い季節の到来です。子どもたちの大好きなプール・水遊びが始まります。水に触ることで皮膚を丈夫にし、心肺機能も高めます。たくさん体を動かすため、とても疲れます。元気そうに見えて、おうちでゆっくりと過ごし、しっかり疲れを取るようにしてください。

## 体調OK? チェックリスト

子どもたちの大好きなプール・水遊び！元気に楽しくあそべるように、毎朝の体調チェックをお願いします。

### □熱は何度ですか？

子どもの平熱を把握しておきましょう。

### □食欲はありますか？

プール・水遊びはとても体力を消耗します。しっかり食べてください。

### □前日、よく眠りましたか？

睡眠不足は体調不良の原因となります。

### □目やにや充血はありませんか？

起床時以外に戻間も目やにや充血が見られるようなら、結膜炎のおそれもあります。眼科受診をしてください。

### □せき・鼻水は出ていますか？

症状のある場合は、プール・水遊びをすることは出来ません。

### □皮膚に異常はありませんか？

傷やただれがあって乾燥していない場合（絆創膏が必要な傷）は、プール・水遊びはできません。

### □爪は切ってありますか？

お友達にケガをさせてしまします。

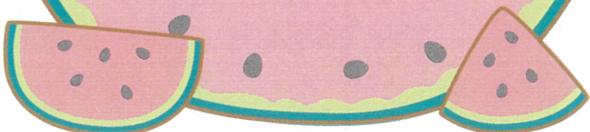
\*気になることがありましたら保育士、看護師にお声かけください。



・歯科検診・プール前健診を  
おこないました。

異常があったお子さんは、早めに  
受診し治療をしてください。

ご不明な点は看護師にお尋ねくだ  
さい。



## 気をつけよう！ 夏にはやる病気

夏に気をつけたい感染症。代表的な3つの、主な症状を挙げてみました。ウィルス感染によって起こる病気です。他人への感染力も強いので気になる症状のときはすぐに病院を受診しましょう！

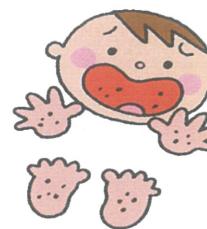
### ヘルパンギー

突然の高熱とのどの痛み。特にのどは、水ぼうや潰瘍ができるのが特徴。かなり痛む。



### プール熱

プール・水遊びで感染することあり。高熱とのどの痛み、充血や痒みなど結膜炎のような症状もある。



### 手足口病

手のひらや足の裏、口の中に小さな水ぼうができ、熱が出ることもある。

### 7月の予定

発育測定 7月 7日(水)

0歳児健診 7月 1日(木)

7月 15日(木)



## Lunch & Snack time

# 食育だより

7月に入りいよいよ夏本番です！蒸し暑い日が続きますが、食欲は落ちていませんか？

食欲が落ちると、体力が消耗して夏バテになることもあります。冷たい麺などが食べやすいですね。たくさんの量を食べられなくても、具材などを工夫して栄養バランスを取るように心掛けてみましょう。トマトやきゅうりなど、おいしくて栄養たっぷりの旬の野菜を取り入れてみて下さいね。給食ではかぼちゃやなす、すいかなどの旬の食材が出てきます。楽しみにしていてね♪



### 今が旬の夏野菜を食べよう！！



今が旬のトマトやきゅうりなどの夏野菜もハウス栽培であれば一年中食べることが出来ます  
が、旬のものは栄養価が高く、なんといっても美味しいです！！

暑い夏には涼しくてあっさりとした野菜や酸味のある果物が旬を迎えます。これ他の野菜や果物は、水分やカリウム、ビタミン類を豊富に含んでいるものが多く、身体にこもった熱を身体の中からクールダウンしてくれたり、厚さで弱る意を刺激し消化を助けてくれる働きがあります。

また冬は身体を温めてくれる根野菜が旬を迎えます。夏には夏の冬には冬に必要な栄養を摂ることで、季節に対応した体づくりが出来るのです。

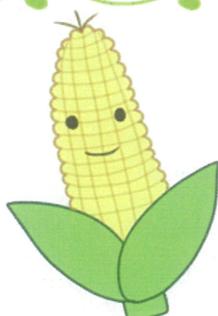
ぜひ旬を意識して普段の食生活を楽しんでみて下さい。

今が旬！このコーナーでは旬の食材を紹介していきます。

ぼくとうもろこしくん！

ぼくは糖質とたんぱく質が主な成分で、野菜の中では高カロリーなんだ！ぼくのすごいところは粒の根っここの胚芽！！ここにはビタミンB群やカリウム、マグネシウムなどの栄養素がたくさん詰まっているんだ。ビタミンB1、B2は脂質や糖質の代謝をスムーズにして、エネルギー代謝をよくして、疲れを取ってくれるんだ。しかも、夏バテ予防や、スタミナをつけるのに効果のあるアミノ酸も含まれているんだぞ！

今月は、6日と20日のおやつに登場するよ！おいしいから残さず食べてもらえると良いな♪



美味しい！とうもろこしの見分け方

- 1、皮の緑が鮮やか
- 2、粒にハリ・ツヤがある
- 3、ひげがふさふさで赤褐色



## # ユナタン①

2021年7月 片山喜章

6月25日まで理事長でした。私個人の適性は、保育(園)や子ども(集団)について探求することにあります。学識系ではなく実践系です(還暦をすぎても尚、一部の園の子どもからの人気は強いです)。子どもは、良い事、悪い事をします。悪い事をしたときは、しっかり叱るのが正しい大人の態度です、ね。「しっかり叱らないから、子どもに規範意識が育たない」とふつうに考える人は多くいます。果たしてそんな単純な捉え方で良いのでしょうか。

「世界の今」も「これまでの人間社会」も、本質的に倫理や道徳や善悪ではなくて支配欲や利害関係や因襲など複雑な歴史で彩られており、不条理は山ほどあったと思います。一方、子どもの言動を○×問題のように「善か悪か」で判断し、形的に善に導くことが教育と考え「できる、できない」で人間性までも評価する価値基準に、私たちは今も尚、支配されています。

どうして乳幼児期や学童期の子どもには模範となるような言動を求めてしまうのか、それが安心、安全だと邪推してしまっていないのか、まずはそんな大人の認識の点検が必要です。

法人の3つの小規模保育園(1園の定員は1、2歳児で12名)では毎月、合同で事例検討会をしています。先日(6月24日開催)、1つの園において排泄前、自分でズボンをおろさない2歳児のXのエピソードがありました。A先生は「自分でやってみようね」と気長に誘い掛けますが頑なに無視します。「じゃあ、途中まで先生がおろすから、その後は自分でおろしてね」と妥協案を投げかけるとXはおもむろに片方のズボンをおろしかけました。“しめた”と思ったA先生は「すごい」と言いながら自分の手を放すと、Xも手を放してしまいました。

ズボンはXの片足の膝のあたりで止まったまま。(ナンデナン！？)とA先生のつぶやき。

そこでA先生、「じゃ～、こっちの足は全部先生が脱がせてあげるから、そっちの足は自分でしてね！」と妥協案 part2。Xは片方の足をA先生にすんなり脱がせてもらいました。けれどもそこでフリーズ…。Xに、もう片方を「自分でおろそうか」と笑顔で誘ってみても、無視、無言、無表情。(ナ、ナンデナン part2)。で、結局、XはA先生にズボンを両足ともすべておろしてもらって、いざ、トイレにゴー。この間のやりとりは、一体、なんだったんでしょう。

わずか数分の物語のなかに、「生活習慣の自立」「保育者の願いと迷い」「その子らしさの理解と対応」という要素が含まれていることを検討会で確認しました。(裏面へ)

1、2歳児だけで12名の施設。そこに常時3~4名の保育者がいる。しかも保育室は決して広くなく、当該園では、すべての保育者がすべての子どもを観察できるというある意味、好条件、ある意味、やや窮屈な環境(大人の感覚で子どもは全く感じていない)。

この日の検討会では、2歳児Xの個性(月齢と人となり)について、そしてA先生のこの場面での心の動きについて、他の2園の先生たちとともに考察しました。「生活習慣の自立」は、乳児保育において保育課題の1つであり保育者の願いです。なかでも「着脱衣」は、焦らなくても良いと一般に言われますが、集団保育の現場においては「できれば早く獲得してほしい」と願うのは、古今東西、保育者のしぜんな気持ちです。保護者も家庭ではなかなかうまくできないので「園でお願いします」と園に期待している部分が大きいのも事実です。

しかし、A先生のエピソードを読み解くと、XはB先生の前では、たいていの場合、自分で脱いだり、はいたり、自立しているとのこと。先生によって自分の振る舞い方を使い分けているのです。まさに謎のミスターX。A先生は甘いのか、B先生は恐いのか。Xは、頭のよい子?使い分けするのは良くない子? みなさんはどう感じますか(実際問題、Xのような大人は山ほどいます)。著名な専門書には「子どもがしてほしい」と言ったら小言を言わずに「とことんしてあげることが大事」とあります(同感です)。「柔らかな気持ちでしてもらった」ことが堆積すると子どもの方から「自分でするから手伝わないで」と「自立」につながると解釈されています。

Xが「ぬがせてほしい、はかせてほしい」といわないのは、先生たちが「それが良くない事」と考えていることをわかっているからかもしれません。しかし「してほしい」と真に願っていることを口外できる事は健全に育つための過ごし方だと思います。となるとXが言えない雰囲気を作ったのは誰? A先生は救世主?(笑) 近頃の小中学生が悩みを口にできないのは、社会から「正論」で諭され、まともに扱われないことに起因していると思われます。

この事例検討会終盤、全員で確認したのは、多様な先生同士の関係性についてです。「子どもになめられる先生は、良くない」という職員文化を作らない。むしろ逃げ道も大事。「子どもをきちっとまとめられる先生を良い先生と評さない」という価値観を確認しました。保育園は職員同士のある意味、多様性の風土が大事かもしれません。子どもは大人の何倍ものパワーで自分の力で育っていくものです。先生は、乳幼児であっても伴走者です。

Xは、最近、どの先生に対しても「ちてちて(してほしい)」と訴えるとのことです。(了)

